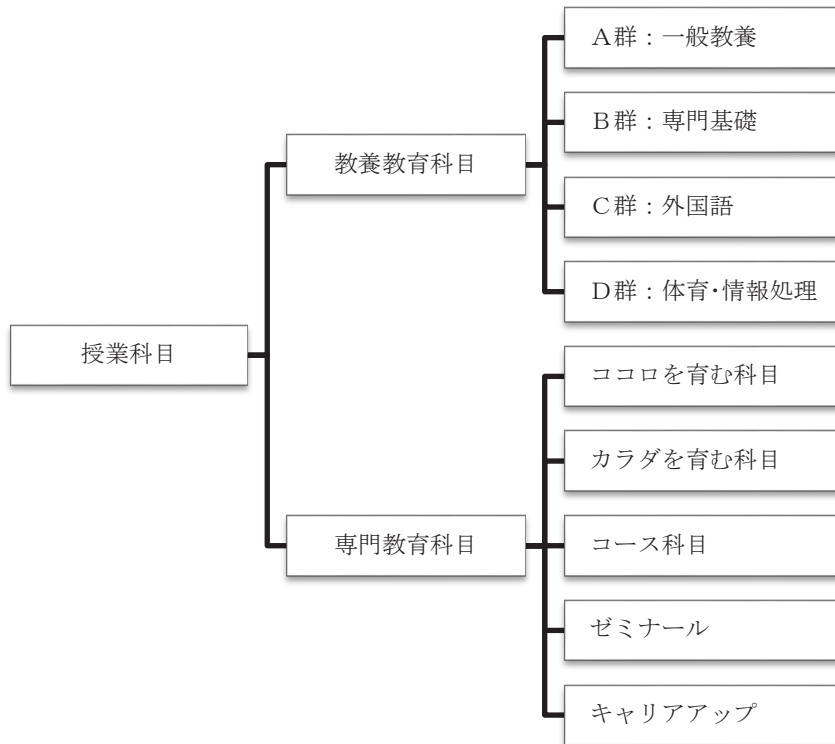


健康栄養学部の履修について

1. 授業科目区分

健康栄養学部の授業科目は、教養教育科目（一般教養、専門基礎、外国語、体育・情報処理）、専門教育科目（ココロを育む科目、カラダを育む科目、コース科目、ゼミナール、キャリアアップ）に区分され、それぞれの区分で修得する単位数が学則で定められています。規定にしたがって単位を修得（科目を履修し、単位を取得すること）すれば、卒業の要件を満たすことになります。



2. 卒業に必要な単位数

卒業に必要な単位数は次のとおりです。ここに表記されている数字以上の単位を修得することが必要です。卒業までに、決められた履修方法により合計 130 単位以上を修得しなければなりません。

科目区分	教養教育科目				専門教育科目									単位数合計	
	A群	B群	C群	D群	ココロを育む科目	カラダを育む科目	コース科目			ゼミナール		キャリアアップ			
	一般教養	専門基礎	外国語	体育・情報処理			栄養教諭コース	健康栄養コース	臨床栄養コース	健康栄養演習	卒業研究	キャリアアップ演習	教職科目		
必修			2	3		8 2							6		9 3
選択	4	4	2	1	1 0		1 6							3 7	
卒業要件単位	1 6				1 0	8 2	1 6					6	—	1 3 0	

3. 教養教育科目

健康栄養学部の教養教育科目は、一般教養（A群）、専門基礎（B群）、外国語（C群）、体育・情報処理（D群）の4群に分かれており、それぞれの科目群から定められた単位を修得しなければなりません。次ページの表中△印は教員免許状（栄養教諭一種）の必修科目です。栄養教諭コースへの登録を考えている人は履修してください。

①一般教養（A群）

一般教養科目は、バランスのとれた思考力と人間性を形成し、幅広い教養を身につけることを目的としています。人文・社会・生命の分野を中心に科目を設置しています。A群からは、4単位を卒業までに修得しなければなりません。

②専門基礎（B群）

専門基礎科目は、管理栄養士に必要な専門領域への円滑な導入を図ることを目的としています。理数系・専門基礎系科目を中心に科目を設置しています。B群からは、4単位を卒業までに修得しなければなりません。

③外国語（C群）

国際社会で活躍するためには外国語の修得が必須となります。本学部では、英語、中国語、フランス語、ドイツ語の4言語を置いています。この中から「英会話Ⅰ」「英会話Ⅱ」の2単位を必修とし、その他の科目から2単位、合計4単位を卒業までに修得しなければなりません。

④体育・情報処理（D群）

体育科目は、運動・スポーツを通して健康の維持・増進を図ることを目的としています。運動が健康に及ぼす影響について実習を通して学びます。情報処理科目は、インターネット社会における情報の利活用について学びます。またパーソナルコンピュータやアプリケーションソフトの活用スキルを身につけます。「スポーツ・健康実習A」、「情報処理A」、「情報処理B」の3単位を必修とし、その他の科目から1単位、合計4単位を卒業までに修得しなければなりません。

【履修上の注意】

- ・「英会話Ⅱ」は「英会話Ⅰ」を修得後、履修可能です。
- ・「英語Ⅱ」は「英語Ⅰ」を修得後、履修可能です。
- ・「中国語Ⅱ」は「中国語Ⅰ」を修得後、履修可能です。
- ・「フランス語Ⅱ」は「フランス語Ⅰ」を修得後、履修可能です。
- ・「ドイツ語Ⅱ」は「ドイツ語Ⅰ」を修得後、履修可能です。

区分	科目	単位	開講セメスター								卒業要件単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
			1年次		2年次		3年次		4年次			
教養教育科目	(A群) 一般教養	音楽	2	○	○							4
		文学	2	○	○							
		個人と社会	2	○								
		生活と広告	2	○								
		法学入門	2		○	○						
		経営学入門	2		○	○						
		消費者行動論	2		○							
		ヒトと動植物	2	○								
		生命倫理	2	○								
		日本国憲法 △	2	○	○							
	(B群) 専門基礎	食生活論	2	○								4
		基礎生物化学 ▲	2	○								
		生活と化学	2	○								
		栄養情報	2		○							
	(C群) 外国語	統計学概論	2	○								
		英会話 I ◎△	1	○								2
		英会話 II ◎△	1		○							
		英語 I	1	○								2
		英語 II	1		○							
		中国語 I	1	○								
		中国語 II	1		○							
		フランス語 I	1	○								
		フランス語 II	1		○							
		ドイツ語 I	1	○								
	ドイツ語 II	1		○								
	(D群) 体育・情報処理	スポーツ・健康実習 A ◎△	1	○								3
		情報処理 A ◎△	1	○								
		情報処理 B ◎△	1		○							
スポーツ・健康実習 B △		1			○						1	
情報処理 C		1			○							

◎：必修科目

△：栄養教諭一種免許必修科目

▲：食品衛生管理者・食品衛生監視員必修科目

4. 専門教育科目

(1) ココロを育む科目

ココロを育む科目は、「ココロの面からも対応できる管理栄養士」の育成を目的としています。管理栄養士の業務は人を対象とするため、対象者の心理状態や健康状態に対する正しい知識と理解が必要になります。この科目群には心理系科目（7科目）と代替医療系科目（5科目）が配置されています。この中から10単位を卒業までに修得しなければなりません。

【心理系科目】

心理学概論、臨床心理学概論、人間関係論、健康心理学、発達心理学、コミュニケーション論、心理アセスメント

【代替医療系科目】

代替医療論、サプリメントと健康、笑顔コミュニケーション論、アロマセラピーと健康、アロマセラピーコーディネート

区分	科目名	単位	開講セメスター								卒業要件 単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
			1年次		2年次		3年次		4年次			
専門教育科目	ココロを育む科目	心理学概論	2	○								10
		臨床心理学概論	2	○								
		人間関係論	2		○							
		健康心理学	2		○							
		発達心理学	2		○							
		コミュニケーション論	2	○								
		心理アセスメント	2		○							
		代替医療論	2	○								
		サプリメントと健康	2		○							
		笑顔コミュニケーション論	2	○								
		アロマセラピーと健康	2	○								
		アロマセラピーコーディネート	2	○								

(2) カラダを育む科目

カラダを育む科目は、本カリキュラムの中核をなす部分であり「疾病の予防、早期発見、回復の各観点から高い専門知識を有する管理栄養士」としての能力を養成する科目群です。管理栄養士学校指定規則で定められた専門基礎分野及び専門分野 82 単位の科目がすべて含まれています。選択科目（総合演習Ⅲ・臨地実習Ⅳ）を除く 52 科目 82 単位を卒業までに修得しなければなりません。

【履修上の注意】

- ・科目名にⅠ、Ⅱが付いている科目は、Ⅰの単位修得後に、Ⅱを履修できます。
- ・ただし「総合演習Ⅱ」、「臨地実習Ⅰ」、「臨地実習Ⅱ」、「臨地実習Ⅲ」、「臨地実習Ⅳ」には別途履修条件があります。詳細は「1 1. 学外実習科目・総合演習・卒業研究の履修条件」を参照してください。

区分	科目名	単位	開講セメスター								卒業要件 単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
			1年次		2年次		3年次		4年次			
専門教育科目	カラダを育む科目 必修	健康管理概論 ◎	2		○							82
		公衆衛生学Ⅰ ◎	2			○						
		公衆衛生学Ⅱ ◎	2				○					
		生化学Ⅰ ◎	2			○						
		生化学Ⅱ ◎	2				○					
		生化学実験Ⅰ ◎	1					○				
		生化学実験Ⅱ ◎	1						○			
		解剖生理学Ⅰ ◎	2			○						
		解剖生理学Ⅱ ◎	2				○					
		解剖生理学実験Ⅰ ◎	1					○				
		解剖生理学実験Ⅱ ◎	1						○			
		運動生理学 ◎	2		○							
		病理学 ◎	2				○					
		微生物学 ◎	2		○							
		食品学総論 ◎◆	2	○								
		食品学各論 ◎◆	2		○							
		食品学総論実験 ◎◆	1		○							
		食品学各論実験 ◎◆	1			○						
		食品衛生学 ◎◆	2			○						
		食品衛生学実験 ◎	1				○					
		調理学 ◎◆	2	○								
		調理学実習Ⅰ ◎◆	1	○								
		調理学実習Ⅱ ◎◆	1		○							
調理科学実験 ◎◆	1				○							
基礎栄養学 ◎◆	2	○										
基礎栄養学実験 ◎	1		○									

区分	科目名	単位	開講セメスター								卒業要件 単位	
			1	2	3	4	5	6	7	8		
			1年次		2年次		3年次		4年次			
専門教育科目 カラダを育む科目 必修	応用栄養学Ⅰ ◎◆	2		○								82
	応用栄養学Ⅱ ◎	2			○							
	応用栄養学実習 ◎	1			○							
	栄養アセスメント論◎	2						○				
	栄養教育総論 ◎	2		○								
	栄養教育各論Ⅰ ◎	2			○							
	栄養教育各論Ⅱ ◎	2				○						
	栄養教育論実習Ⅰ ◎	1				○						
	栄養教育論実習Ⅱ ◎	1					○					
	医療概論 ◎	2			○							
	臨床栄養学総論 ◎	2		○								
	臨床栄養学各論Ⅰ ◎	2			○							
	臨床栄養学各論Ⅱ ◎	2				○						
	臨床栄養学実習Ⅰ ◎	1				○						
	臨床栄養学実習Ⅱ ◎	1					○					
	公衆栄養学Ⅰ ◎	2					○					
	公衆栄養学Ⅱ ◎	2						○				
	公衆栄養学実習 ◎	1						○				
	給食経営管理論Ⅰ ◎	2			○							
	給食経営管理論Ⅱ ◎	2							○			
	給食経営管理実習 ◎	1				○						
	総合演習Ⅰ ◎	1					○	----->				
	総合演習Ⅱ ◎	1							○	----->		
	臨地実習Ⅰ ◎	1					○	----->				
臨地実習Ⅱ ◎	1					○	----->					
臨地実習Ⅲ ◎	2						○	----->				
選択	総合演習Ⅲ	1							○	----->	※	
臨地実習Ⅳ	1								○	----->		

◎：必修科目

◆：フードスペシャリスト必修科目

※：卒業要件の専門選択 16 単位に算入可能

----->：学外実習の時期は実習先によって異なるため、単位認定の時期は 8 セメスターになります

(3) コース科目

本学科はコース制を採用しています。3年次から、以下の3コースのいずれかに所属して授業を受けることになります。コースの選択は2年次10月に行う予定です。

- ・栄養教諭コース
- ・健康栄養コース
- ・臨床栄養コース

コース科目で修得した単位は、専門教育科目の選択16単位の一部として卒業要件にカウントされます。所属するコース以外の科目は8単位まで履修できます。ただし他コースの科目は、単位認定はされますが卒業要件単位には充当されません。所属コース以外の科目を履修する場合は、卒業要件を満たすことができるよう十分に注意してください。

①栄養教諭コース

健康を維持・増進するための施策として、第1次予防・第2次予防・第3次予防という考え方があります。栄養教諭コースは第1次予防（発病予防・健康増進）に主眼をおいたコースです。近年、食育の重要性が認識され、平成17年度より栄養教諭制度が創設されました。栄養教諭には、変化する食環境への対応や、児童の食育を通して国民の食生活を是正することなどが期待されています。

栄養教諭コースには、栄養教諭一種免許の取得に必要な知識を習得するための科目が配置されており、「栄養に係る教育に関する科目」及び「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」（以下「教育の基礎的理解に関する科目等」）の4領域から構成されています。

このコースを選択した場合、栄養教諭コース科目、カラダを育む科目の選択科目（総合演習Ⅲ・臨地実習Ⅳ）およびゼミナール（健康栄養演習、卒業研究）の中から16単位を卒業までに修得しなければなりません。ただし、栄養教諭一種免許を取得するためには、栄養教諭コース科目で指定された8科目16単位をすべて修得しなければなりません。

【履修上の注意】

- ・「学校栄養指導論Ⅱ」は「学校栄養指導論Ⅰ」を修得後、履修可能です。
- ・「栄養教育実習」には履修条件があり、指定された単位を修得していないと履修できません。詳細は「11. 学外実習科目・総合演習・卒業研究の履修条件」を参照してください。
- ・「栄養教育実習」は7セメスターの科目ですが、6セメスターと8セメスターにそれぞれ事前・事後指導が行われます。事前・事後指導を受講しない場合は、単位が認定されません。

区分	類	科目名	単位	開講セメスター								卒業要件 単位
				1	2	3	4	5	6	7	8	
				1年次		2年次		3年次		4年次		
専門教育科目	a	学校栄養指導論Ⅰ △	2					○				※
		学校栄養指導論Ⅱ △	2						○			
	b	教育課程論 △	2					○				
		教育方法の理論と実践 △	2					○				
		生徒指導論△	2					○				
		学校教育相談（カウンセリングを含む）△	2						○			
		栄養教育実習 △	2							○----->		
		教職実践演習（栄養教諭）△	2								○	

△：栄養教諭一種免許必修科目

※：卒業要件の専門選択16単位に算入可能

----->：学外実習の時期は実習先によって異なるため、単位認定の時期は8セメスターになります

②健康栄養コース

健康栄養コースのカリキュラムは大きく3つに分類されます。第一に、事業所やホテル・レストランにおける健康管理を習得する健康管理系の科目、第二に、スポーツ団体やスポーツセンターにおける栄養管理・栄養指導を行うために必要な知識を習得するスポーツ栄養系の科目、第三に、食品メーカーで食品開発などを行うために必要な知識を習得する食品・調理系の科目です。また、健康栄養コースには、フードスペシャリスト受験資格を得るための科目が配置されています。

このコースを選択した場合、健康栄養コース科目、カラダを育む科目の選択科目（総合演習Ⅲ・臨地実習Ⅳ）およびゼミナール（健康栄養演習、卒業研究）の中から16単位を卒業までに修得しなければなりません。

区分	類	科目名	単位	開講Semester								卒業要件 単位
				1	2	3	4	5	6	7	8	
				1年次		2年次		3年次		4年次		
専門教育科目	c	メニュー開発論	2						○			※
		特定保健指導計画	2					○				
	d	無酸素性・有酸素性エクササイズの理論と実際	2					○				
		身体トレーニングのプログラムデザイン	2						○			
		スポーツ栄養管理	2						○			
	e	食の安全性	2					○				
		食品開発論	2						○			
		バイオテクノロジー	2						○			
		食品の官能評価 ◆	2					○				
		食品の流通と消費 ◆	2					○				
		フードコーディネート論 ◆	2					○				
		フードスペシャリスト論 ◆	2					○				

◆：フードスペシャリスト必修科目

※：卒業要件の専門選択16単位に算入可能

③臨床栄養コース

臨床栄養コースには、病院・老人保健施設等の栄養士として必要な知識を習得する臨床栄養系の科目と、保健所・市町村・児童福祉施設・老人保健施設等の栄養士として必要な知識を習得する地域保健・福祉栄養系の科目が配置されています。

このコースを選択した場合、臨床栄養コース科目、カラダを育む科目の選択科目（総合演習Ⅲ・臨地実習Ⅳ）およびゼミナール（健康栄養演習、卒業研究）の中から16単位を卒業までに修得しなければなりません。

【履修上の注意】

- ・「臨床栄養学実習Ⅲ」、「福祉栄養学実習」には履修条件があり、指定された単位を修得していないと履修できません。詳細は「11. 学外実習科目・総合演習・卒業研究の履修条件」を参照してください。

区分	類	科目名	単位	開講Semester								卒業要件 単位
				1	2	3	4	5	6	7	8	
				1年次		2年次		3年次		4年次		
専門教育科目	f	栄養法別対応論	2						○			※
		臨床栄養ケアプラン	2						○			
		臨床栄養指導	2					○				
		臨床栄養学実習Ⅲ	2								○	
	g	福祉システム論	2					○				
		小児栄養	2						○			
		食物アレルギーへの対応	2						○			
		高齢者栄養	2						○			
		介護学概論	2					○				
		栄養ケア・マネジメント論	2					○				
		福祉栄養学実習	2							○		

※：卒業要件の専門選択16単位に算入可能

④各コースと進路の対応

各コースの科目表に記載されている「類（a～g）」は“進路に生かせる7類”として各職域に対応しています。進路選択の際に、参考にしてください。

- a [栄養教諭系：栄養に係る教育に関する科目] ⇒ 学校（栄養教諭の資格取得）
- b [栄養教諭系：教育の基礎的理解に関する科目等] ⇒ 学校（栄養教諭の資格取得）
- c [健康管理系] ⇒ 事業所・ホテル・レストラン・フードビジネス
- d [スポーツ栄養系] ⇒ スポーツ競技団体・スポーツセンター・他施設で健康管理
- e [食品・調理系] ⇒ 食品メーカーで食品開発・フードスペシャリスト（資格取得）
- f [臨床栄養系] ⇒ 病院・老人保健施設
- g [地域保健・福祉栄養系] ⇒ 保健所・市町村・児童福祉施設（保育園）・老人福祉施設（老人ホーム）

(4) ゼミナール・キャリアアップ科目

①ゼミナール

管理栄養学科にはゼミナール科目として、健康栄養演習（3年次）と卒業研究（4年次）を設置しています。どちらも選択科目で、複数の担当教員がそれぞれの専門分野で研究テーマを設定しています。自分が関心のあるテーマを選んで科目を決めてください。ゼミナールは春学期・秋学期連続で開講する通年科目です。健康栄養演習は2年次2月に、卒業研究は3年次2月に授業の概要とテーマの説明会を行います。修得した単位は、卒業要件の専門選択16単位に算入できます。なお卒業研究には履修条件があります。詳細は「11. 学外実習科目・総合演習・卒業研究の履修条件」を参照してください。

②キャリアアップ演習

管理栄養士は、保健、医療、介護、福祉、教育など多方面にわたって活躍の場があり、それぞれの領域で高度な専門性が必要とされます。キャリアアップ演習は、国家試験に合格し、管理栄養士に求められる高い専門知識と技能を身につけるための科目として設置しています。全6科目からなる構成ですべて必修科目です。キャリアアップ演習Aは初年次導入科目です。管理栄養士の業務を知り、管理栄養士に必要な基本的知識、社会人としての心構えを学びます。キャリアアップ演習B～Fは、管理栄養士に必要とされる専門分野を5つに分類し、それぞれの領域についてより実践的で深化した学習を行い、国家試験合格を目指します。

③教職科目

栄養教諭一種免許を取得するための科目です。栄養教諭コースの科目に加え、教職科目として、以下の表にある「教育原理」、「教職概論」、「教育心理学」、「特別支援教育概論」、「道徳教育・特別活動」、「総合的な学習の時間の指導法」の6科目10単位をすべて修得しなければなりません。なお、この6科目の単位は卒業要件には算入されません。

区分	科目名	単位	開講セメスター								卒業要件 単位
			1	2	3	4	5	6	7	8	
			1年次		2年次		3年次		4年次		
専門教育科目	ゼミナール	健康栄養演習	2					○			※
		卒業研究	4						○		
	キャリアアップ演習	キャリアアップ演習A ◎	1	○							6
		キャリアアップ演習B ◎	1				○				
		キャリアアップ演習C ◎	1					○			
		キャリアアップ演習D ◎	1						○		
		キャリアアップ演習E ◎	1							○	
		キャリアアップ演習F ◎	1							○	
	教職科目	教育原理 △	2						○		—
		教職概論 △	2				○				
		教育心理学 △	2				○				
		特別支援教育概論△	1					○			
		道徳教育・特別活動△	2						○		
		総合的な学習の時間の指導法△	1					○			

◎：必修科目

△：栄養教諭一種免許必修科目

※：卒業要件の専門選択16単位に算入可能

5. 取得可能な資格

① 栄養士資格

管理栄養学科の課程を卒業することで栄養士資格を取得できます。

法令で定める区分	単位		本学開講科目	単位	
	講義 または 演習	実験 または 実習		講義 または 演習	実験 または 実習
社会生活と健康	4	4	健康管理概論、公衆衛生学 I	4	—
人体の構造と機能	8		解剖生理学 I、生化学 I、生化学実験 I 解剖生理学実験 I、運動生理学、病理学	8	2
食品と衛生	6		食品学総論、食品学各論、食品衛生学 食品学総論実験、食品衛生学実験	6	2
栄養と健康	8	10	基礎栄養学、応用栄養学 I、応用栄養学実習 臨床栄養学総論、臨床栄養学各論 I 臨床栄養学実習 I	8	2
栄養の指導	6		栄養教育総論、栄養教育各論 I、 栄養教育論実習 I、栄養教育論実習 II 公衆栄養学 I、公衆栄養学実習	6	3
給食の運営	4		調理学、調理学実習 I、調理学実習 II 調理科学実験、給食経営管理論 I 給食経営管理実習、臨地実習 I	4	5

(栄養士法施行規則別表第 1 による)

②管理栄養士資格

管理栄養学科の課程を卒業することで管理栄養士国家試験の受験資格を取得できます。卒業年度の3月に行われる国家試験に合格することで、管理栄養士の資格を取得できます。

法令で定める区分	単位		本学開講科目	単位			
	講義 または 演習	実験 または 実習		講義 または 演習	実験 または 実習		
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	健康管理概論、公衆衛生学Ⅰ 公衆衛生学Ⅱ	6	—	
	人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち	14		生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、生化学実験Ⅰ 生化学実験Ⅱ、解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ 解剖生理学実験Ⅰ、解剖生理学実験Ⅱ 運動生理学、病理学、微生物学	14	4	
	食べ物と健康	8		食品学総論、食品学各論、食品学総論実験 食品学各論実験、食品衛生学 食品衛生学実験、調理学、調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ、調理科学実験	8	6	
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学、基礎栄養学実験	2	1	
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ 応用栄養学実習、栄養アセスメント論	6	1	
	栄養教育論	6		栄養教育総論、栄養教育各論Ⅰ 栄養教育各論Ⅱ、栄養教育論実習Ⅰ 栄養教育論実習Ⅱ	6	2	
	臨床栄養学	8		医療概論、臨床栄養学総論 臨床栄養学各論Ⅰ、臨床栄養学各論Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅰ、臨床栄養学実習Ⅱ	8	2	
	公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ、公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習	4	1	
	給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ、給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理実習	4	1	
	総合演習	2		—	総合演習Ⅰ、総合演習Ⅱ	2	—
	臨地実習	—		4	臨地実習Ⅰ、臨地実習Ⅱ、臨地実習Ⅲ	—	4

(管理栄養士学校指定規則別表第1による)

③栄養教諭一種免許

管理栄養学科には教職課程が設けられています。栄養教諭コースに所属し、卒業要件単位を満たした上で、栄養教諭一種免許必修科目（科目表の△印）をすべて修得し卒業することで、教職資格を取得できます。この資格に必要な総単位数は最低 140 単位となります。

栄養教諭一種免許の取得には、教職課程履修費と教育実習費の納入が別途必要です。教職課程の詳細は、本書「履修のてびき」巻末の「教職課程のてびき」を参照してください。

④食品衛生管理者および食品衛生監視員の任用資格

食品衛生管理者および食品衛生監視員は、食品衛生法に定められた国家資格です。下記の表に定められた科目（必修科目 39 単位および選択科目「基礎生物化学」2 単位）の計 41 単位をすべて修得し卒業することで、食品衛生管理者および食品衛生監視員の任用資格を取得できます。任用資格とは、特定の職務に任用される際に必要となる資格です。

区分	本学開講科目	単位	健康栄養学部における区分
化学関係	基礎生物化学	2	教養教育科目（選択科目）
生物化学関係	生化学Ⅰ	2	カラダを育む科目（必修科目）
	生化学Ⅱ	2	
	生化学実験Ⅰ	1	
	生化学実験Ⅱ	1	
	食品学総論	2	
	食品学各論	2	
	食品学総論実験	1	
	食品学各論実験	1	
微生物学関係	微生物学	2	
公衆衛生学関係	公衆衛生学Ⅰ	2	
	公衆衛生学Ⅱ	2	
	食品衛生学	2	
	食品衛生学実験	1	
その他の関連科目	病理学	2	
	医療概論	2	
	解剖生理学Ⅰ	2	
	解剖生理学Ⅱ	2	
	解剖生理学実験Ⅰ	1	
	解剖生理学実験Ⅱ	1	
	基礎栄養学	2	
	基礎栄養学実験	1	
	応用栄養学Ⅰ	2	
	応用栄養学Ⅱ	2	
	応用栄養学実習	1	
合計		41	

⑤フードスペシャリスト資格

フードスペシャリストは、食に関する総合的・体系的な知識・技術を身につけ、豊かで安全かつバランスのとれた食を消費者に提供するための民間資格です。下記の表に定められた科目の単位をすべて修得し、日本フードスペシャリスト協会の認定試験に合格し卒業することで資格が認定されます。資格区分には次の3種類があります。

- (1) フードスペシャリスト資格
- (2) 専門フードスペシャリスト（食品開発）資格
- (3) 専門フードスペシャリスト（食品流通・サービス）資格

認定試験は3年次・4年次の12月に本学で実施されます。認定試験に合格しても、規定科目（下表）の単位が修得できない場合は、資格の認定はされません。なお、3年次に規定科目の単位を修得し認定試験に合格しても、資格認定は卒業時となります。

フードスペシャリスト資格に必要な費用は、5,000円（登録料1,000円＋受験料4,000円）です。さらに専門フードスペシャリスト（食品開発）もしくは専門フードスペシャリスト（食品流通・サービス）の専門資格を受験する場合は、それぞれの資格ごとに受験料2,000円の追加費用が必要です。2つの専門資格は、フードスペシャリスト資格を同時受験するか合格している場合にのみ、一方の資格について受験が可能です。

また資格認定試験に合格した場合は、資格認定証交付手数料（フードスペシャリスト資格4,000円、専門フードスペシャリスト資格2,000円）の納入が別途必要となります。

フードスペシャリスト資格の登録・納入手続きについては別途連絡します。

認定科目	本学開講科目	単位
フードスペシャリスト論	フードスペシャリスト論	2
食品の官能評価・鑑別論	食品の官能評価	2
	調理科学実験	1
食物学に関する科目	食品学総論	2
	食品学各論	2
	食品学総論実験	1
	食品学各論実験	1
食品の安全性に関する科目	食品衛生学	2
調理学（調理科学を含む）に関する科目	調理学	2
	調理学実習Ⅰ	1
	調理学実習Ⅱ	1
栄養と健康に関する科目	基礎栄養学	2
	応用栄養学Ⅰ	2
食品流通・消費に関する科目	食品の流通と消費	2
フードコーディネート論	フードコーディネート論	2
合計		25

6. 科目の履修

担当教員が異なる場合でも、同一名称の科目を重複して履修することはできません。また、一度単位を修得した科目を再び履修することはできません。

7. 他コースの科目の履修

自分が所属するコース以外の科目は、8単位まで履修できます。ただし、単位認定はされますが、卒業要件単位には充当されません。他コース科目の履修を考える際は、卒業要件単位の計算に当たり、十分に注意してください。

8. 他学部開講科目の履修

健康栄養学部の学生は、情報学部、国際学部、経営学部の授業科目を履修することができます。他学部開講科目の履修を希望する場合は、その科目が健康栄養学部生に開講されている科目かどうか、時間割で事前に確認してください。他学部開講科目は、単位認定はされますが、卒業要件単位には充当されません。他学部開講科目の履修を考える際は、卒業要件単位の計算に当たり、十分に注意してください。

9. 履修単位数の制限

1年間に履修登録できる単位数は48単位以内と定められています。本書「履修のてびき」の規程編「健康栄養学部履修単位数制限規程」を参照してください。ただし、教職科目である「教育原理」、「教職概論」、「教育心理学」、「特別支援教育概論」、「道德教育・特別活動」、「総合的な学習の時間の指導法」を履修する場合は、この制限が除外されます。

10. 学外実習科目および総合演習Ⅰ～Ⅲの履修

学外の施設で実習を行う科目を学外実習科目といいます。これらの科目には履修条件があります。詳細は、「11. 学外実習科目・総合演習・卒業研究の履修条件」を参照してください。また、学外実習を行う科目は、それぞれ学内で事前指導・事後指導を実施しますので、必ず出席してください。履修条件で指定された単位を修得できなかった者、また甚だしく成績・性行がよくない者については、学外実習科目の履修が認められませんので、十分に注意してください。

学外実習科目	対象学生	事前指導・事後指導	
臨地実習Ⅰ ◎	全コース	総合演習Ⅰ ◎ (事前指導)	総合演習Ⅱ ◎
臨地実習Ⅱ ◎			(事後指導)
臨地実習Ⅲ ◎		総合演習Ⅲ (事前・事後指導)	
臨地実習Ⅳ			
栄養教育実習 △	栄養教諭コース	事前・事後指導は別途指示	
臨床栄養学実習Ⅲ	臨床栄養コース	事前・事後指導は別途指示	
福祉栄養学実習			

◎：必修科目

△：栄養教諭一種免許必修科目

11. 学外実習科目・総合演習・卒業研究の履修条件

科目名	開講期	履修の条件（下記の科目を修得済みであること）	
◎臨地実習Ⅰ	3年春～	調理学 調理学実習Ⅰ・Ⅱ 給食経営管理論Ⅰ 給食経営管理実習 ★ 栄養教育論実習Ⅰ ★ 応用栄養学実習 総合演習Ⅰ	1年春 1年春・1年秋 2年春 2年秋 2年秋 2年春 3年春（履修すること）
◎臨地実習Ⅱ	3年春～	臨地実習Ⅰの条件と同じ	
◎臨地実習Ⅲ	3年秋～	臨地実習Ⅰの条件に加えて下記の科目を修得済みであること	
		医療概論 臨床栄養学総論 臨床栄養学各論Ⅰ・Ⅱ ★ 臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ ★ 栄養教育論実習Ⅱ ★	2年春 1年秋 2年春・2年秋 2年秋・3年春 3年春
臨地実習Ⅳ	4年春～	栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ 応用栄養学実習 総合演習Ⅲ	2年秋・3年春 2年春 4年春（履修すること）
◎総合演習Ⅰ	3年春～	（条件なし）	
◎総合演習Ⅱ	4年春～	【履修条件】臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していること 【単位認定条件】臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習をすべて終えていること 【単位認定時期】上記実習を完了した次の秋学期で単位認定する	
総合演習Ⅲ	4年春～	（条件なし）	
卒業研究	4年春・秋	「カラダを育む科目 62 単位以上を修得済みであること」および 「3年次までに合計 100 単位以上を修得済みであること」	
臨床栄養学実習Ⅲ	4年秋	臨床栄養コース	臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していること
福祉栄養学実習	4年秋	臨床栄養コース	

◎必修科目

★の単位が当該セメスターで修得できない場合、総合演習Ⅱの単位認定は5年目秋学期となる。

科目名	開講期	履修および実習の条件
栄養教育実習 (栄養教諭コース)	4年春～	【履修条件】履修登録についての条件は特になし
		【実習条件】 実習の実施日以前のセメスターまでに次の(1)(2)を満たしていること (1)下記6科目をすべて修得済みであること 「教職概論」「道德教育・特別活動の研究」「生徒指導・教育相談」 「学校教育相談（カウンセリングを含む）」 「学校栄養指導論Ⅰ」「学校栄養指導論Ⅱ」 (2)下記4科目のうち2科目以上を修得済みであること 「教育原理」「教育心理学」「教育課程論」「教育方法の理論と実践」

条件に指定された単位を修得できなかった者、また甚だしく成績・性行がよくない者については、学外実習科目の履修が認められませんので、十分に注意してください。